

団 体 名	(株)大阪水道総合サービス	所 管 局 名	水道局
-------	---------------	---------	-----

市が法人に求める役割

○ 水道事業体へのサービスの提供を通じて市民の生活環境、公衆衛生及び市民サービスの向上に貢献

- ・大阪市水道事業をはじめとする水道事業体のニーズに即応したサービスを安定的・効率的に提供し、かつ徹底した効率的運営を促進することにより、自立できる経営基盤のもと、市民の生活環境、公衆衛生及び市民サービスの向上に貢献する。

対応方針

1. 水道広域化への積極的関与

多様なニーズを有する水道事業体との信頼関係を構築しつつ、大阪市が培ってきた水道技術・ノウハウを広域展開し、市域外事業の受託実績を積み重ねることにより、水道広域化の一翼を担う。

2. 経営基盤の強化

競争優位性のある強み事業への重点化を図りつつ、少数精鋭による組織づくりに努め、黒字基調による自立自走の事業運営を構築する。

戦略目標

①広域的な受注の確保

- ・当年度獲得事業体数
〔14事業体 (H29)
→15事業体 (H30)〕

②利益の確保

- ・営業利益
【104百万円 (H29見込)
→77百万円 (H30)】

③人材力の強化

- ・有資格者数
【95人 (H29)
→99人 (H30)】

【参考:中期経営計画の目標値】

様 式 2

中期経営計画に基づく基本方針(目標設定の考え方)

団 体 名	(株)大阪水道総合サービス	所 管 局 名	水道局
-------	---------------	---------	-----

○中期経営計画の概要

中 期 ビ ジ ョ ン (団体が目指す 中期の到達点)	常にお客さまのニーズを意識した業務改善に努め、満足いただける品質の高い水道サービスをお届けするため、継続的に経験豊かな人材の確保と育成に努め、水道技術の継承を図り、公共性や公益性の高い事業に積極的に参画し、時代の要請に見合った合理的な水道事業の一翼を担う。		
中期経営計画名称 (計画期間)	(株)大阪水道総合サービス中期経営計画 2018～2020年度	公表先URL	https://owgs.co.jp

○最終年度の到達目標

戦 略	成果測定指標	単 位	最終年度の 到達目標	目標達成のための活動事項
総売上高の確保	売上高	円	15億円以上	・現行受託事業の継続を確保しながら、新規事業の獲得に向けた戦略的売上高の拡大に取り組む。
利益の確保	営業利益	%	売上高の5%以上	・業務提携や技術継承により品質の高いサービスを維持しながら、業務の付加価値向上に努め、事業環境に応じた体制を構築することにより、安定的な収益を確保する。
人材力の強化	有資格者数	人	108人	・技術研修や資格取得制度の活用により、社員の資格取得を促すとともに、有資格者の採用を強化する。

○平成30年度経営目標

1. CS(市民満足)、事業効果(設立目的と事業内容の適合性)

戦略目標	成果測定指標	単位	H30 目標	中計 H30 目標	H30 目標値設定の考え方 (数値の根拠)
広域的な受注の確保	当年度獲得事業体数	事業体	15	-	過去実績(H29)を上回る値。 $14(\text{H29実績見込}) + 1 = 15$ ※H29実績値の確定に応じて修正予定。

2. 財務(健全性、採算性)、効率性(コスト抑制と経営資源の有効活用、自立性の向上)

戦略目標	成果測定指標	単位	H30 目標	中計 H30 目標	H30 目標値設定の考え方 (数値の根拠)
利益の確保	営業利益	百万円	77	77	人材の確保・育成、賃金等処遇面の見直し及び事務処理のIT化による経費計上の結果、前年度実績を下回る目標設定。 ※中期経営計画初年度目標数値

3. その他(市から自立化するための取組み、法人の経営上重要と認められるもの)

戦略目標	成果測定指標	単位	H30 目標	中計 H30 目標	H30 目標値設定の考え方 (数値の根拠)
人材力の強化	有資格者数	人	99	99	過去実績(H29)を上回る値。 ※中期経営計画初年度目標数値

様式 3

平成30年度経営目標設定表

団 体 名	(株)大阪水道総合サービス	所 管 局 名	水道局
-------	---------------	---------	-----

○中期経営計画の概要

団体経営者の考え (H30の課題と重点目標)	企業価値の向上と経営収支の健全化への取組みを継続しながら、売上高に応じた持続可能な経営体質の確立に向け、現行受託事業の継続を確保し、新規事業の獲得に向けた戦略的構造の構築に取り組む。そのためには、高品質で競争力のある業務体質を維持するために、人材確保と育成に努め、技術の継承を積極的に進めながら、安定的に事業継続を維持できる経営体質を確立する。
---------------------------	--

○平成30年度経営目標

1. CS(市民満足)、事業効果(設立目的と事業内容の適合性)

戦略目標	成果測定指標	単位	H28実績	H29実績	H30目標	ウェイト	前年度実績比較	戦略目標達成のための活動事項
広域的な受注の確保	当年度獲得事業体数	事業体	8	14	15	30	高い	・広域的な受注の確保が出来る体制づくりを推進し、市場動向の分析及び他の水道事業体への営業活動に努める。

2. 財務(健全性、採算性)、効率性(コスト抑制と経営資源の有効活用、自立性の向上)

戦略目標	成果測定指標	単位	H28実績	H29実績	H30目標	ウェイト	前年度実績比較	戦略目標達成のための活動事項
利益の確保	営業利益	百万円	113	104	77	30	低い	・技術継承のための人材確保と育成に努めながら、営業収支の健全化に努めることにより、営業利益を確保する。

※ H29実績が見込値の場合は斜体で表示

3. その他(市から自立化するための取組み、法人の経営上重要と認められるもの)

戦略目標	成果測定指標	単位	H28実績	H29実績	H30目標	ウェイト	前年度実績比較	戦略目標達成のための活動事項
人材力の強化	有資格者数	人	85	95	99	40	高い	・技術研修や資格取得制度の活用により、社員に対し、水道施設管理技士や土木施工管理技士等の資格取得を促すとともに、これら有資格者の採用を強化する。

補足説明資料1

前年度実績より高い目標を設定できない理由について

団 体 名	(株)大阪水道総合サービス	所 管 局 名	水道局
-------	---------------	---------	-----

経営目標①

※ H29実績が見込値の場合は斜体で表示

視点	戦略目標	成果測定指標	単位	H28 実績	H29 実績	H30 目標	ウェイト	前年度 実績比較
2. 財務、効率性	利益の確保	営業利益	百万円	113	104	77	30	低い

前年度実績より高い目標を設定できない理由	大阪市の水道事業を補完する監理団体として、水道トータルシステムに関わる総合的な技術やノウハウを蓄積し水道関連業務のエキスパート企業としても、将来にわたって持続発展を実現していくために、体制の強化及び生産性の向上を図ることが重要である。 平成30年度の事業計画では、売上高が98百万円の増加で、一般管理費が3百万円の縮小となるものの、次の経費を計上したことにより、128百万円売上原価が増加することとなった結果、営業利益は前年度実績より高い目標を設定できなかった。 ①事業物件費の増加(+77百万円) (主な増加理由) ・売上高増加に伴う事業所新設等のための必要経費の増加 ②事業人件費の増加(+51百万円) (主な増加理由) ・将来の事業拡大に向けた水道事業に必要な技術を有する人材の採用・育成のための経費の増加 ・有能な社員の獲得及び社員の勤労意欲向上を図るための賃金等、処遇面の改善に係る経費の増加
----------------------	---

団 体 が 考 え る 目 標 困 難 度	高い
-----------------------------	----

